毎月11日掲載

防災・減災のページ

むすび塾

巡回ワークショップ @仙台・長町

自助基本に 交流と団結

マンションの備えを考える

第11回むすび塾は2月16日、仙台市太白区のマンション「ロイヤルシャトー長町」（12階、88戸）で開いた。東日本大震災では揺れで家具などが倒れたほか、停電と断水に見舞われた。マンションの備えはどうあるべきか。減災・復興支援機構（東京）の木村拓郎理事長が進行役を務め、住民ら11人が震災発生当時の様子を振り返りながら意見交換した。

2011年3月の震災発生当時、マンションは築14年。太白区は震度5強を観測し、低中層階を中心に壁が崩れるなどの被害が出た。停電でエレベーターが動かなかったほか、水道とトイレも使えなくなった。建物の修繕は約3カ月かけて11月に終えた。

「室内はつり下げ型蛍光灯が割れ、食器棚の中身が散乱した」と参加者。足の踏み場もない状態で、備蓄品や持ち出し袋を探すのにも苦労したという。別の参加者は「水をためていた風呂の栓が振動で外れ、空っぽになった」と振り返った。

「家具を固定する留め具は効果がなかった」との声が上がった一方、現在も実践している参加者は多かった。家具が転倒しても、下敷きにならない空間を室内に設ける重要性を確認。背の高い家具を処分して低い家具に買い替えた住民の防災対策も紹介された。

住民同士の助け合いも話題になった。揺れが収まった後、マンション内を巡回してけが人の有無を確認した。一人暮らしの高齢者や介助が必要な人の室内の片付けも手伝ったという。

参加者は、住民の交流と団結の必要性を確かめ合った。毎秋、防災訓練に合わせて芋煮会を開催している。それに加え、65歳以上の高齢者の親睦会を中心にカラオケやマージャンで交流を深めようとの提案が出た。

参加者のうち地元町内会の会員は2人だけだった。塩田洋子さん(75)は「敬老会に行ってみたら、商店街に顔見知りが結構増えた」と話した。災害に備え、管理組合として地域との連携を検討することを決めた。

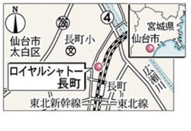
周辺にマンションが多いため、震災発生当時、長町小には最大約3000人が避難。午後5時前に体育館が満杯になり、仕方なくマンションに戻った住民も多かった。震災後、マンション内で生活することを目標に、対策に取り組むことを申し合わせた。

備蓄資材については、管理組合がどこまで準備すべきか、置き場所や管理をどうするか、などを議論した。

木村理事長は「備えの基本はやはり自助だ。管理組合が何でも準備してくれるとなると、個人の危機管理意識が薄れる恐れがある」と指摘。自家発電機や無線などの機材は管理組合、水や食料は各家庭で備蓄するべきだとの認識を共有した。

巡回ワークショップ
むすび塾

家具の転倒、停電、断水…。東日本大震災での経験を踏まえ、マンションの防災対策について意見を交わす住民たち



東北工業大准教授（地域計画）

福留 邦洋さん

住人の中に頼れる人材も

災害はいつも同じ状況で起きるわけではない。東日本大震災以外の災害もありうると認識し、複数のケースに対応して考える必要がある。

3月11日の発生時刻は日中だった。マンションの住人で、働き盛りの人たちは大半が留守。けが人が出たらどうなっていただろう。日中いる少数の住人、それも高齢者が多い中でできる体制を考え、整えておかなければいけない。

発生の時間帯が違えば、考える対策も違ってくる。夜間なら、寝る場所に物が落ちたり、飛んできたりしないか。暗い中ですぐに安全を確保できる場所はあるか。睡眠時の安全性は生命の安全性に直結する。家族と話しておいてほしい。

高層マンションでエレベーターの復旧が遅いと、上層階の住人が孤立する恐れがある。どうやって支えるかが課題だ。

ほかのマンションと交流してはどうか。震災後にどんなことがあったのか、参考となる情報を集められる。

住人の中には建築関係などに携わり、復旧の力になってくれる人がいるかもしれない。住人同士の交流を深め、どんな人材が住んでいるのか、把握しておくのも効果的だ。

■むすび塾に参加して――仙台・長町

【震災時の対応】管理組合の顧問をしている。組合は震災5日後に復旧のための理事会を開いた。迅速な対応が早い修繕と復旧につながった。
＝マンション管理士・佐藤克夫さん(70)

【震災を経験して】震災前、避難訓練に参加する住人は数えるほどだったが、震災後は9割になった。交流の機会も増えた。震災で同じ苦労をしたことが良い方向に働いている。
＝組合理事広報担当・加藤文彦さん(70)

【震災時の様子】避難場所の長町小へ行ったが、体育館も教室も人であふれ、居場所がなかった。避難を諦めて帰宅した人もいる。近くにもう一つ避難場所がほしい。
＝塩田洋子さん(75)

【震災を経験して】震災の後、お年寄りのための親睦会をつくった。初会合には30人が参加し、関心が高いと分かった。カラオケやマージャンなどの娯楽を交えてつながりをつくり、支え合いに生かしたい。
＝組合防災委員・佐藤春樹さん(68)

【震災時の様子】10階の自宅は家具などが倒れてめちゃくちゃ。車の中で生活したが、震災3日目に自宅に戻った。エレベーターは止まっていた。壊れた食器などを袋に詰め、何度も階段を使って捨てに行った。
＝組合修繕委員・沢村和典さん(66)

【震災時の様子】マンションで避難生活を送っている住人のために、避難所に食料をもらいに行った。世帯数や住人の年代などの詳しい情報を求められ、受け取らずに帰った。避難所と状況は変わらないのに…。
＝組合理事・奥山茂さん(59)